事務事業マネジメントシート（21年度実績と22年度計画）

22年度予算確定後 平成 22 年 3 月 25 日 作成
21年度決算把握後 平成 22 年 月 日 作成

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業			☑ マニフェスト関連	☑ 全庁横断課題関連	☐ 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり	所属部	教育委員会事務局	課長名	髙木 敏明
	施策	20	生涯学習の推進	所属課	生涯学習課	担当者名	衛藤 剛
	基本事業	68	学習・スポーツの参加機会の提供	所属班	生涯学習班	（内線）	2432
予算科目	会計 1	款 10	項 5	目 5	事業連番 10765	法令根拠	合志市三つの木の家自主事業実行委員会要綱
						成果優先度評価結果	5
						コスト削減優先度評価結果	9
終了、開始年度	☐ 21年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☑ 単年度繰返（開始年度 H12 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む）	自主事業実行委員会が、三つの木の家で実施する社会教育活動について支援を行う。 三つの木の家自主事業実行委員会が平成12年度から設置され、施設の有効利用と青少年の育成のため始まった。
【業務の流れ】	三つの木の家での各種自主事業運営の事務局として、実行委員会運営を支援するとともに、必要な経費を負担金として交付し、通学合宿事業や、ふれあい交流事業、子ども工作体験等を実施している。業務内容は事業の企画、参加者募集、実施とそれに係る経費の会計処理である。
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金、職員給与、職員手当
【意見や要望】関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動） 21年度実績（21年度に行った主な活動）（DO）

自主事業実行委員会負担金(900千円)交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催1回、3泊4日宿泊体験事業3回開催（5、10、2月）、ふれあい交流事業3回開催(7、11、1月)、子ども工作体験教室3回(6、12、3月)
※当初は9月にも通学合宿を予定していたが、新型インフルエンザウィルスにより中止した。

22年度計画（次年度に計画している主な活動）（PLAN）

自主事業実行委員会負担金(900千円)交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催1回、3泊4日通学合宿事業4回開催（5、10、11、2月）、ふれあい交流事業3回開催(6、9、12月)、子どもデイキャンプ3回開催（8、12、3月）、サンデー陶芸全10回（11～2月）

④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）＝①の指標 （単位）
⇒ ア 三つの木の家自主事業の回数 回
イ （単位）

② 対象（誰、何を対象にしているのか）＊人や自然資源等
市民

⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）＝②の指標 （単位）
⇒ ア 人口 人
イ

③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）
学習やスポーツに意欲的に取り組んでもらう。

⑥成果指標（意図の達成度を表す指標）＝③の指標 （単位）
⇒ ア 三つの木の家自主事業の参加者数 人
イ

＊⑥成果指標設定の理由と平成22年度目標値設定の根拠
自主事業により多くの市民の方に参加してもらうことで、多くの市民の学習につながる。
また、施設を利用した学習活動をアピールすることで、市民の方々の自発的な施設利用につながる。

(2) 各指標・総事業費の推移

		単位	19年度 実績(決算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	21年度 実績(決算)	22年度 目標(当初予算)	23年度 予定	24年度 見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度（期間限定複数年度のみ記載）
④ 活動指標	ア	回	8	9	10	10	10	10		
	イ									
⑤ 対象指標	ア	人	53500	54000	54500	54800	54800	55500		
	イ									
⑥ 成果指標	ア	人	160	190	180	189	180	180		
	イ									
投入量 事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	都道府県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	繰入金	千円								
	一般財源	千円	1,080	984	1,001	1,001	1,001	1,001		
	（A）事業費計	千円	1,080	984	1,001	1,001	1,001	1,001	0	0
	(A)のうち指定経費	千円								
	(A)のうち時間外、特勤	千円	83	84	101	67	101	101		
人件費	正規職員従事人数	人	6	5	6	5	6	6		
	延べ業務時間	時間	550	710	700	740	700	700		
	(B)人件費計	千円	2,184	2,840	2,786	2,945	2,786	2,786	0	0
トータルコスト(A)＋(B)		千円	3,264	3,824	3,787	3,946	3,787	3,787	0	0

合志市

事務事業名	三つの木の家社会教育活動支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課

2 評価の部(SEE)

＊原則は21年度の事後評価、ただし複数年度事業は21年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①21年度目標達成度評価 事務事業の前年度実績は前年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☑達成した　☐達成しなかった　⇒【原因】
	②22年度目標達成見込み 事務事業の本年度目標値に対して本年度の見込みはついているか？	☑目標達成見込みあり ⇒【理由】　☐目標達成は厳しい　⇒【理由と対策】 平成21年度において、インフルエンザによる中止を除く全ての事業が定員に達し、ニーズが高い事業であるから。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか	☑向上余地がある　⇒【理由】　☐向上余地がない　⇒【理由】 ・児童を対象に野外での日帰りの生活・自然体験ができる「子どもデイキャンプ」を企画することで、より質の高い教育活動が可能である。 ・利用の少ない日曜午後に「サンデー陶芸教室」を開催することで、施設の利活用が進む。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには，この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐他に手段がある　（具体的な手段，事務事業）　☑他に手段がない　⇒【理由】 ☐統廃合・連携ができる　⇒【理由】 ☐統廃合・連携ができない　⇒【理由】 他に類のない施設であるため、統廃合にはなじまない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐削減余地がある　⇒【理由】　☑削減余地がない　⇒【理由】 現在も多数のボランティアの協力を得ながら事業を進めている。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐削減余地がある　⇒【理由】　☑削減余地がない　⇒【理由】 平成20年度より指導員へ資料作成等の業務の一部を移管した。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐見直し余地がある　⇒【理由】　☑公平・公正である　⇒【理由】 自主事業の参加者からは参加料を受けており、公平である。 宿泊体験は対象を小学校4～6年生に限定しているが、限定することにより効果を高めるものであるため妥当である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事務事業のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行出来ないか？	☐見直し余地がある　⇒【理由】　☑役割分担は適正である　⇒【理由】 現在は通学合宿における食事指導を地域婦人会等のボランティア団体、子どもたちの指導を大学生等と協力しながら行っている。

3 評価結果の総括(SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

全体的には例年通りの事業が実施できた。
しかし、メインの行事である小学生を対象とした「宿泊自然体験研修」の参加者が学校により偏りがあるため、全学校からの参加が増えるよう、努力する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

☐廃止　☐休止　☐目的再設定　☐事業統廃合・連携　☑事業のやり方改善(有効性改善)
☐事業のやり方改善(効率性改善)　☐事業のやり方改善(公平性改善)
☐現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			
	低下			

(3) 改革，改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

合志市